

ramanyam for constructive criticism. We express our deep sense of gratitude to the Director, Royal Botanic Gardens, Kew and to the Director, Botanic Gardens, Rio de Janeiro for the material.

Literature cited

Cuatrecasas, J. 1961. A taxonomic revision of the Humiriaceae. Contr. U.S. Nat. Herb. 35: 25-214. Eames, A.J. 1961. Morphology of Angiosperms. New York. Hutchinson, J. 1959. The Families of Flowering Plants. 1. London. Narayana, L.L. 1964. A contribution to the floral anatomy and embryology of Linaceae. J. Indian Bot. Soc. 43: 343-357. Rao, D. & Narayana, L.L. 1965. Vascular anatomy of Humiriaceae. Curr. Sci. 34: 383-384. Wilson, C.L. 1965. The floral anatomy of Dilleniaceae. 1. *Hibbertia* Andr. Phytomorphology 15: 248-274.

* * * *

Humiriaceae の諸属の中、今回は *Vantanea* 属の 3 種の花部解剖の結果を報告する。アマ科植物と同じく、花は 5 数 5 輪性である。がく片は 3 葉跡を受けるが、其中脈跡と花卉の共通側脈跡とが癒合する (*V. macrocarpa* と *V. minor*)。花卉は 3 葉跡を受ける。雄ずい圏には多数の分枝した維管束を生ずるが、これは Dilleniales の束生雄ずいとの関係を想わせる。単体雄ずいの内側に花盤が存在するが、これは花糸筒部の内側の変態によるものであり、花盤というものの起源の一つを仄示する。子房は 5 心皮 5 室、上方で 1 室となり、各室に上下に重なって 2 個ずつの胚珠が形成される。解剖学的に側膜胎座である。花柱は 1 本に癒合し、中空の内面は transmitting tissue に裏打され、心皮の背縫維管束が花柱脈になる。

□Robert S. Woods: **An English-Classical dictionary for the use of taxonomists.** pp. 331. Pomona College, Claremont, California, U.S.A. 新らしい学名をつける場合はもちろんだが、古くついた学名の語源をさぐる場合などに、大変便利なので少し古いが御紹介する。英語で見出し語を与え、それに厳格に対応するギリシア語とラテン語とを挙げた辞書である。学名の語源をあげた類書もいくつかあるが、これは Liddell & Scott's Greek-English Lexicon と Andrew's Latin-English Lexicon とから、後年に意味がずれたりしたようなものを除いて、ギリシア・ローマの時代に使われた、そのもとの意味がはっきりしたものだけを集録したものという。ギリシア語はローマ字に置きなおしてあるのも便利。ひまがあるときひっきりかえすと成程とおどろくことがあるだろう。たとえばナシ(梨)のところをひくと、ギリシア語で *Achras*, *Apios*, *Ochne* の三つと、ラテンで *Pirus* とが出る。みな属名と関係があることが暗示されるなど。

(前川文夫)